

## IV-39

### 地域計画における支援システムの開発について

ハザマ 正会員 下川 弘  
 正会員 須田 清隆  
 大谷 理子

#### 1. 研究の目的

地域開発や再開発関係の計画業務における情報の収集や、分析作業は、多大な作業時間と労働力が必要とされ、その効率化を図る事は急務とされている。

本研究は、地域計画等の提案を行う上で、情報収集から、分析・コンセプト作成に至るまでの企画プロセスで必要な情報について、その情報体系とシステム化の構築に、事例推論(CBR: Case Based Resorning)手法を用いた場合の適用効果の可能性を探ることにある。

#### 2. 開発計画

開発のプロセスは、計画業務の分析を行った上で、業務の目的と情報の関係付けを明らかにし、計画支援システムに必要な事例推論エンジンの開発とシステム化を行った。(図1)

尚、計画支援システムに活用するデータベースは、従来のキーワード検索型データベースから、オブジェクトワードによる検索型データベースとした。

#### 3. 事例推論ベースによるシステム概要

開発事業の計画実績から業務分析を行ってみると、開発コンセプト作成までの理由付け作業・想起作業と、事業計画までの具体化・詳細化作業に分類できる。(表1)そこで本システムは、この開発コンセプト作成までの作業を中心に、広域立地条件から計画地域の位置付けまでの『計画書自動作成支援』と事例推論ベースを組み込んだ『想起支援』を行うものである。

事例推論ベースによるシステムは、以下の6つの主機能より成る。

##### (1) 計画目標設定機能 (Anticipator)

計画目標に対するコンセプトの方向性を設定する。

##### (2) 想起機能 (Retriever)

対象地域の都市情報や特徴情報により、計画の成功・失敗事例からなる計画事例ベースより類似概念を推論し、目標計画事例の想起を行う。

##### (3) 修正機能 (Modifier)

計画事例ベースからの想起結果が計画目標を満足していない場合に、計画目標を満足するように想起事例を修正していく。

##### (4) 修復機能 (Repairer)

修正機能 (Modifier) が立案事例の修正に失敗した場合、失敗状況の修復を行う。

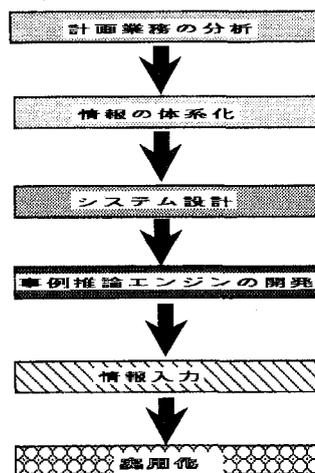


図1 開発フロー図

表1 提案書作成の流れ

(1) 広域立地条件 (位置、面積、地勢、気候、人口、世帯数、交通機関、産業分布、地域経済力等)
(2) 市場調査・分析 (小売業、宿泊施設、スポーツ施設、事務所、公共施設、住居規模等)
(3) 計画地域の位置付け (上位計画、地域区分、再開発計画、生活圏等)
(4) 開発コンセプト (開発の方向性、目標、コンセプト)
(5) 建築計画 (施設規模、計画図等)
(6) 事業計画 (事業方式、事業費、事業手法)
(7) 検討課題の抽出

